

平成 2 0 年千葉市教育委員会会議
第 1 1 回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成20年千葉市教育委員会会議第11回定例会会議録

日時 平成20年11月10日(月)

午後1時00分開会

午後1時55分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	委 員 長	津田 英彦
	委 員	奥山 福子
	委 員	岩沼 静枝
	委 員	内山 英夫
	委 員	梅谷 忠勇
	教 育 長	飯森 幸弘

出席職員	教 育 次 長	小川 隆	教育センター所長	菊地 明
	教 育 総 務 部 長	武田 昇	養護教育センター所長	宍倉 喜巳
	学 校 教 育 部 長	岩切 裕	生涯学習部参事(生涯学習振興課長事務取扱)	本庄 賢一
	生涯学習部 長	河野 正行	社 会 体 育 課 長	小川 重夫
	教育総務部参事(総務課長事務取扱)	青葉 正人	青 少 年 課 長	村松 好晴
	教育総務部参事(企画課長事務取扱)	山崎 正義	中 央 図 書 館 長	田口 幸男
	学 校 財 務 課 長	豊田 英男	総 務 課 総 括 主 幹	伊藤 太一
	学 校 施 設 課 長	豊田 滋貴	学 事 課 調 整 主 幹	山本 和豊
	学 事 課 長	吉田 進	生涯学習振興課調整主幹	海保 英利
	教 職 員 課 長	時田 猛	総 務 課 主 幹	杉江 達也
	指 導 課 長	小池 公夫	総 務 課 主 幹	山田 輝夫
	保 健 体 育 課 長	嶋田 信昭		

書 記	総 務 課 長 補 佐	大崎 賢一	総 務 課 副 主 査	小池 正彰
	総 務 課 総 務 係 長	藤代 真史	総 務 課 主 事	犬飼 綾
	総 務 課 人 事 係 長	内山 健	総 務 課 主 事	河瀬 伸也
	総 務 課 経 理 係 長	高橋 義浩		

- 1 開会
津田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
津田委員長より内山委員を指名
- 4 会期の決定
平成20年11月10日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 学校適正配置の取組状況について
企画課長より報告があった。
報告事項(2) 平成20年度研究報告会・研究大会について
指導課長より報告があった。
報告事項(3) 平成20年度千葉市農山村留学推進事業（長野県）に係る報告について
指導課長より報告があった。
報告事項(4) 第44回千葉市小学校陸上大会について
保健体育課長より報告があった。
報告事項(5) 千葉市科学館利用者50万人達成について
生涯学習振興課長より報告があった。
 - (2) 臨時代理報告
報告第15号 懲戒処分の指針の一部改定について
総務課長より報告があった。
 - (3) 発言の要旨
報告事項(1) 学校適正配置の取組状況について
津田委員長 企画課長、報告をお願いします。
企画課長 報告事項(1)「学校適正配置の取組状況について」報告します。
昨年10月の実施方針確定から約1年が経過しましたので、これまでの取組み状況について説明します。平成19年度の取組みですが、美浜区の5つの地域で説明会を実施し、稲毛海岸・高洲地区を除く4地区においては、協議の場である「地元代表協議会」を立ち上げ、話し合いを進めています。各地区の状況について、

先ず、真砂地区ですが、最初に説明会等を実施した地区であり、現在は地元代表協議会の中で話し合いを進めているところです。稲毛海岸・高洲地区の中に真砂1丁目地域がありますが、この取扱いについて議論になりました。真砂1丁目に真砂第五小学校がありますが、この学校は真砂第四小学校から分離した学校であり、地域も真砂1丁目であるため、真砂地区の中で話し合いを進めていきたいとの要望がありました。真砂地区の皆さんは、真砂1丁目の皆さんが真砂地区の話し合いに入るとの意向であれば歓迎する旨の了解を得ております。しかし、真砂1丁目の中に大きな集合住宅があり、建て替えの計画が進んでいることから、この計画の見通しが立つまでは真砂地区に入らず、現状のまま推移を観察したいという意見書が出されております。今後、統合のシミュレーションパターンを地元代表協議会に示し、協議をしていただく予定です。また、小学校の統合を先に定めた上で、中学校の統合を協議していくほうがよいのではないかとの意見や、真砂第五小学校を想定したシミュレーションも検討していきます。幸町地区についてですが、既に地元代表協議会に統合パターンを示しておりますが、統合後の教員数減少が問題となっています。教員の配置がどのようになるのかということを中心に検討する必要があります。また、幸町第一中学校のある幸町1丁目、幸町第二中学校のある幸町2丁目の両地区について、中学校を残した形の適正配置を検討する必要もあるのではないかとの意見や、小中一貫校の検討もしてほしいとの意見も出ています。磯辺地区については、既に地元代表協議会に統合シミュレーションを提示し、協議しております。高洲第二小学校については、磯辺地区と高洲・高浜地区とに学区がまたがっている状態であり、この取扱いが問題となっています。現状では、高浜第二小学校の児童は磯辺第二中学校へ行っており、統合後の中学校への通学をどうするのか検討しています。また、磯辺第一中学校、第一小学校、第二小学校、第四小学校については、企業庁からの借地に建設してあるため、統合後の借地の取扱いについても、今後整理していく必要があります。高洲・高浜地区についても、既に地元代表協議会に統合シミュレーションを提示し、協議を進めています。この地区においても、磯辺地区同様、高浜第二小学校の取扱いが検討課題となっています。保護者より、他の学校の状況が分からないとの意見が出されたことに伴い、学校見学会を実施しました。小規模学校や、

適正規模の学校等の状況を見学し、適正規模の学校の活気のある授業風景に驚いていたようです。今後はシミュレーションを元に検討していきます。稲毛海岸・高洲地区についてですが、唯一、地元代表協議会が設置されておりません。この地区については、住宅開発の計画が多く予想されており、状況を見極めた上で協議を進める必要があります。現状は、そういった状況を各地域に個別に説明しているところです。弥生小学校については、隣接する学校との統合について方向性が示されています。緑町小学校は平成22、23年度に建設を目途とする改築計画があり、これに合わせて弥生小学校と緑町小学校を統合する話し合いを進めるべく、地域の代表者や保護者等への説明を行っているところです。今後は、できるだけきめ細かく保護者の方々等に説明しながら、全体的な説明会を開催し、その後、地元代表協議会を立ち上げ、具体的な検討に入っていきたいと考えています。千城台地区、花見川地区については、小規模校が非常に集中している地区であり、各学校長への情報交換という形での説明を実施しています。今後は、各自治会単位での個別の説明をしていき、ある程度周知をした段階で全体的な説明会を開催したいと考えております。適正配置の全体的な今後の取組みとしては、先に手掛けた美浜地区について重点的に話し合いを進め、見通しを立てたいと考えています。千城台地区や花見川地区等については、様子を見ながら取り組んでまいりたいと考えます。

内 山 委 員 幸町地区の取組み状況の中に、統合後の教員数減少の問題とありますが、具体的のどのようなことでしょうか。

企 画 課 長 統合後の学級数によって学級担当教員の数が決まりますが、規模が非常に小さな学校が統合した場合、統合後の学級数が変わらないことも想定されることから減少を危惧するということです。

津 田 委 員 長 そのような事例は幸町地区に限ったことではないと思いますが、特に幸町地区に「問題」として記載した理由はどのようなことなのでしょう。

企 画 課 長 ご指摘の通り、一地区のみに該当する問題ではありませんが、幸町地区において、特に統合後の教員数減少を問題とする声が大きいうことで記載したものであり、他地区においても同様の意見があります。

報告事項(2) 平成20年度研究報告会・研究大会について

津田委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(2)「平成20年度研究報告会・研究大会について」報告します。本市では、「生きる力」をはぐくむため、「わかる授業 楽しい教室 夢広がる学校」づくりを進めておりますが、その一環として、指導課及び保健体育課が本市の教育課題の解明に向け、21校を研究校として指定しております。その研究指定校をはじめ、全国組織・団体主催の報告会等が実施されておりますので報告します。11月6日から2月7日にかけて10校の市指定校の公開研究報告会及び全国規模の教育研究大会が行われます。11月6日には大椎中学校の研究報告会が実施され、各教科の授業公開がありましたが、生徒は話し合いに積極的に取り組み、自分の考えをよく表現していました。また、読書の紹介リーフレットにも表現力が育っている様子がうかがえました。当日は、近隣の小・中学校の教員30人ほどが集まり、意見交換会が行われました。教育委員会からは飯森教育長及び担当指導主事が参加し、地域・保護者・教員を含め、延べ300人ほどが、授業公開に参加しました。また、11月21日には緑町中学校で、昨年度の市の指定の研究報告会に引き続き、「生徒が生き生きと学べる学校環境の工夫～『生徒のマルチ能力』の活用を通して～」を研究主題に、ソニー科学教育研究会全国大会が行われ、理科を中心に各教科20学級の授業公開が予定されています。11月28日には、来年度、全国造形教育研究大会予定されている幕張中学校で、『きらめく感性 ときめく思い うみだせアート』を研究主題に、県教育研究会造形部会研究発表会が行われます。今後、これらの研究の成果を市内の学校で共有し、これからの新しい教育の基盤づくりを着実に進めていきたいと考えております。

報告事項(3) 平成20年度千葉県農山村留学推進事業（長野県）に係る報告について

津田委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 報告事項(3)「平成20年度千葉県農山村留学推進事業（長野県）に係る報告について」報告します。本事業は、①留学先で多くの人とめぐり会い人間関係を広げる中で、他人を思いやる心や社会性を育成する、②さまざまな体験活動を通して子どもの自主性、創造性を伸ばす、③ゆったりとした時間の流れの中で一人一人の個性が発揮され長所が生かされるようにする、④さまざまな体験活動を通して自分や自分を取り巻く周囲の状況を理解し、千

葉市で学んでよかったという郷土への誇りと愛情をはぐくむことを目的としています。実施期間は8月22日（金）から26日（火）までの4泊5日です。実施市町村は長野県全体に広がり、18市町村に、千葉市の小学校23校の6年生児童1,046人が参加しました。併せて、各学校の教職員131人と教育委員会の職員が指導者として同行しました。また初任者研修の一環として、初任者177人も参加しております。なお、「豊かな体験活動推進事業 農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」とは、子どもたちの豊かな人間性や社会性などをはぐくむために、全国のモデルとなる体験活動に取り組み、豊かな体験活動の円滑な展開に資することを趣旨とした文部科学省の委託事業です。農山村留学の基本的な活動としては、2日間のホームステイ、現地小学校との交流会、農作物の収穫などの農業体験、林業体験、登山などの自然体験、蕎麦打ちなどの文化的な体験、創作的活動などがあります。本年度は天候に恵まれない日もありましたが、ほとんどの地域では予定通りの活動ができました。現在、参加校からの報告をまとめておりますが、参加児童からは、長野県の美しく雄大な景色や豊かな自然に感動したり、千葉では体験できない登山、川遊びなどの体験活動を楽しんだりした感想が寄せられています。また、ホームステイで現地の方々のお世話になり、野菜を食べる自信がついたり、温かく迎えてくれたことから、別れるとき悲しくて涙が出たとの報告もあり、心から優しくしてくれた長野の方々に感謝の気持ちがあふれているようです。一方、児童を送り出した家庭においても、子どもが受入れ地域のことや体験活動を通じて得たことを積極的に話題にするなど、家庭におけるコミュニケーションが深まり、子どもの成長を実感するなどの報告がありました。なお、これらの市町村のうち7市町村は、先般千葉市で行われた産業まつりに、交流の一環として参加していただき、農産物の廉価販売などで大変好評を得ました。また、11月14・15日には、長谷村（現・伊那市）の支所長等が来葉され、交流を行った学校でシンポジウムを開く予定となっており、今後も継続して交流を行っていきます。

岩 沼 委 員 この事業は初任者研修を兼ねているとのことですが、初任者の方への研修効果はどうだったのでしょうか。

指 導 課 長 例として中学校の教員の場合、これから中学校に上がってくる小学校6年生の様子を見ることができ、体験活動をどのよう

に指導していけばよいかといったことを、補助的立場で学習できることから、大変勉強になっているとの声があります。

内 山 委 員 これだけの規模の事業なので、準備も大変だったと思います。先方の学校との折衝など苦労があったのではないのでしょうか。

指 導 課 長 地区ごとに、指導課と教育センターで担当者を決め、先方の教育委員会との調整を行うとともに、各学校においても実行委員会を組織し準備を進めました。また、各学校では事前に下見を行い、医療機関等の確認や受入れ体制について遺漏のないように確認しています。これらにより、大きな事故もなく事業が進んでいるものと考えています。

報告事項(4) 第44回千葉県小学校陸上大会について

津田委員長 保健体育課長、報告をお願いします。

保健体育課長 報告事項(4)「第44回千葉県小学校陸上大会について」報告します。この大会は、子どもたちの体力を高め、児童相互の望ましい人間関係の育成を図ることを主な目的として開催するものです。市内を2ブロックに分け、10月28日に中央・花見川・稲毛区の部、10月29日には、若葉・緑・美浜区の部を開催し、それぞれ59校、2,085人、63校 2,056人の児童が参加しました。なお、29日は、千葉聾学校の児童も参加しました。開催場所は、両日とも青葉の森スポーツプラザ陸上競技場です。種目ですが、100M走、60Mハードル走、1,000M走、走り幅跳び、ソフトボール投げ、走り高跳び、400Mリレーの7種目を実施しました。両日とも天候に恵まれ、大きな怪我・事故もなく、男子走り幅跳びでは大会記録も生まれるなど、大変有意義な大会でした。

内 山 委 員 初めて見学しましたが、これだけの規模の大会は県内でもなかなかありません。大会・競技運営ともに大変素晴らしいものでした。御苦労さまでした。

報告事項(5) 千葉県科学館利用者50万人達成について

津田委員長 生涯学習振興課長、報告をお願いします。

生涯学習振興課長 報告事項(5)「千葉県科学館50万人達成について」報告します。昨年10月20日にオープンしました千葉県科学館ですが、開館からほぼ1年後に当たる10月26日に、累計利用者数が、当初の年間利用予測である30万人を大きく上回る50万人に達しましたので報告します。当日はこれを記念して、科学館利用者50万人達成記念式典を実施しました。式典についてです

が、平成20年10月26日（日）午前10時30分から千葉市科学館7階の特設会場で、50万人達成認定証授与のほか、記念品・花束贈呈、くす玉割り、記念撮影を実施しました。記念品等の贈呈については、50万人目の利用者である、若葉区在住のご家族へ50万人達成認定証・花束・サイエンスグッズ（ミュージアムショップ商品）を贈呈しました。また、50万人目以降の先着100人の方へ記念品（ボールペン）を差し上げました。なお、Qiball（きぼーる）全体では、平成20年9月19日現在で82万6,898人の方が利用されており、早ければ年内にも利用者100万人が達成される見込みです。

奥山委員 関係者の方の努力で、当初予測を上回る入場者数を達成できたものと思いますが、開館式典の時に、ご来賓の方から、3年目からが大変であるとのお話を伺いました。また、他市の同様の施設でも、よい状況を保つことが大変であると聞いています。そういったことに対しての準備や心構えをお聞かせください。

生涯学習振興課長 オープン当初は関心も高いということもあり、初年度は利用者数が多い傾向があります。傾向的には3年目あたりから、利用者が減少することが多いようです。開館式典の時にもご来賓の方からそのような話をいただきましたので、小中学校との連携強化や、リピーターの確保のため、魅力ある施設展示に努めるほか、展示物の更新についても、指定管理者と協議していきたいと考えています。

飯森教育長 開館以来、千葉市科学館の「参加体験型」、「市民・児童生徒が主役」との特色を活かし、ボランティアを活用しながら運営してきました。3年目が壁と言われているますが、様々な意見をいただきながら、指定管理者と連携してより良い科学館を作り上げていきたいと考えています。

報告第15号 懲戒処分の指針の一部改定について

津田委員長 総務課長、説明をお願いします。

総務課長 報告第15号「懲戒処分の指針の一部改定について」、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき、教育長の臨時代理により処理しましたので、同条第2項の規定に基づき報告します。懲戒処分の指針については平成18年10月に策定し、懲戒処分の対象となりうる代表的な事例とその標準的な処分量定を掲げております。今回の改定は、1点目として入札談合等関与行為防止法の改正による刑事罰の新設。2点目として、飲酒運転

をした者に車両や酒類を提供した者も罰則が適用されるとの、道路交通法改正等社会情勢の変化を踏まえたものです。併せて、処分量定を決定するにあたり考慮すべき事項をより明確にするため、処分量定を重くまたは軽くすることが考えられる場合を例示するなど所要の改定を行ったものです。本来、委員会会議の議決をいただくべきものですが、市長事務部局との調整等が必要であったことから教育長の臨時代理により処理したものです。主な改定内容ですが、先ず、標準的な処分量定よりも重くまたは軽くすることが考えられる場合を新たに例示しました。重くする場合として、「非違行為の動機若しくは態様が極めて悪質であるとき又は非違行為の結果が極めて重大であるとき」等5項目を例示しました。また、軽くする場合として「職員が自らの非違行為が発覚する前に自主的に申し出たとき」等2項目を例示しました。次に、一般服務関係として、入札談合等に関与する行為を追加しています。これは、該当する行為があった場合、免職または停職とするものです。次に、道路交通法の改正により、車両・酒類の提供者にも罰則が適用されることになりましたので、標準例に追加したものです。なお、施行期日は平成20年11月1日からです。市長事務部局においても、同日付けで同内容の改定を行っています。

7 その他

- (1) 奥山委員から、不登校児童生徒に関する質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

奥 山 委 員 不登校児童生徒は、どの程度いるのでしょうか。また、保健室登校の子どもが相当数いるとの記事を新聞で読みました。保健室は広い部屋に再整備され、きれいになったところもあると聞きましたが、逆に現在、保健室を閉鎖している学校はあるのでしょうか。

保健体育課長 保健室は、学校において毎日の生活に必要な施設ですので、閉鎖している学校はないと把握しています。

指 導 課 長 不登校児童生徒の数ですが、平成19年度、小学校で116人 0.22%、中学校で607人 2.73%となっており、いずれも全国の数値より低くなっています。ただ、700人近い児童生徒が不登校となっている事実は重く受け止めており、解消に向けて努力していきます。

奥 山 委 員 ライトポートへの入級希望者が多く、施設が足りなくなっていると聞きますが。

指導課長 ライトポートは、3箇所開設しています。現在、美浜区の真砂第三小学校内に4箇所目のライトポートを開設する準備をしているところです。

奥山委員 中学校の3年間、ライトポートに通級している生徒はいますか。

教育センター所長 現在、3箇所のライトポートに70人弱の子どもたちが通っています。学校復帰についてですが、教育センターのグループ活動を経由し、審査を経て緑町中学校の教育相談指導教室へ行き、そこから学校復帰する者、ライトポートに通いながら、徐々に学校復帰する者といった流れがあります。通級期間は個々の状況により違い、卒業までライトポートに通ったという者もありますが、平成19年度は1人を除いて全員が高校へ進学しました。なお、ライトポートは、定員を1か所25人程度としていますが、それを超えても対応はしています。教育センターでは、随時学校と連携していますので、学校を通して相談いただければと思います。

(2) 岩沼委員から、学校適正配置に関する質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

岩沼委員 高洲・高浜地区では、学校見学会を実施したとのことでしたが、同様の取組みは他地区でも行っているのでしょうか。また、今後実施する予定はあるのでしょうか。

企画課長 これまでのところ、学校見学会を実施したのは高洲・高浜地区のみですが、他地区でも要望は上がっており、特に、千葉市唯一の統合校である花島小学校を見学したいとの意見が多く出ています。現在、様々な統合シミュレーションを示した中で協議を行っていますので、もう少し協議が進んだところで、希望があれば対応していきたいと考えています。やはり、学校現場を見ていただいた方が良いでしょう。

岩沼委員 説明の言葉だけでなく、子どもの目の輝きや、声が飛び交っている雰囲気などに直に触れることは重要だと思います。

企画課長 実際に、学校の活気ある様子を見ていただいたことはよかったと思っています。

(3) 次回第12回定例会は、事務局において日程を調整の上、開催日時を決定することとした。また、第4回臨時会を11月下旬に開催することとし、開催日時については事務局において日程を調整の上、決定することとした。

8 閉会

津田委員長より閉会を宣言